

変化の多い庚子の年を迎えて

校長 小林 繁

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、保護者・地域の皆様に様々な教育活動へのご支援をいただき心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年の干支は庚子(かのえ・ね)となり、変化の多い年になると考えられています。子供たちにとって良い変化の年にしたいものです。

学校教育での大きな変化は、新学習指導要領が本格実施となることです。学習指導要領は10年ごとに改訂されます。社会の変化を見据え、教育も進化することが必要です。今回の改訂における教育内容の主な改善事項は、①言語能力の確実な育成、②理数教育の充実、③道徳教育の充実、④伝統や文化に関する教育の充実、⑤体験活動の充実、⑥外国語教育の充実です。

新年の始めにあたり、新学習指導要領に向けた本校の方針を改めて紹介させていただきます。

① 言語能力については、本校は「表現力の育成」に力を入れています。本年度の教育目標の重点を「かしこく」とし、自分の考えを相手にしっかりと伝える表現力を身に付けたいと考えています。

② 理数教育については、算数科をとおして授業研究を進め「分かる楽しさを味わえる授業づくり」を目指しています。習熟度別少人数指導は2年生から実施し、きめ細やかな指導を進めています。

③ 道徳教育については、「互いの違いを認め高め合う豊かな心を育む」を教育目標の前文に掲げ、道徳教育の充実を図っています。1月25日(土)の道徳授業地区公開講座では、「自分を大切に他の人も大切に」をテーマに、土屋 康子前校長先生にご講話をいただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

2020年は、オリンピックイヤーでもあります。本校は、東京都のオリ・パラ教育アワード校と文化プログラム推進校の指定を受けています。

④～⑥については、この好機を積極的に活かし、次のような資質・能力を育てたいと考えています。

<豊かな国際感覚・日本人としての自覚と誇り>

東京都が進める「世界ともだちプロジェクト」で、本校は、イギリス、ナミビア、パナマ、ポルトガル、ミャンマーが交流指定校となっています。交流を通して、「世界の多様性を理解し、世界各国の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」、「学んだ外国語も活かそうという意欲」を育てていきたいと考えています。

10月の国際朝会では、聖心女子大学の留学生スモンさんにミャンマーのお祭りや料理などを紹介いただき、3年生が交流しました。今後も、交流を進めてまいります。また、日本の伝統文化に触れる機会を設けて、「礼節を重んじ、他者を思いやり、マナーを守り、助け合って生活する態度」を育てたいと考えています。

<障害者理解・スポーツ志向>

昨年まで学んだ競技は、陸上、車椅子バスケット、パラ卓球、パラバドミントン、ボッチャ、ブラインドサッカー、ハンドボール、車椅子ラグビー、フェンシングの9種目です。今後とも様々な競技の体験活動を充実させ、「障害の有無にかかわらず、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく力」、「フェアプレーやチームワークの精神」と「健康づくりに意欲的に取り組む態度」を育てていきたいと考えています。

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、将来に繋がってほしい。社会がどんなに変化し予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、自己実現をして、明るい未来を共に創ってほしい。そんな願いをもって、2020年も教職員一同、力を合わせて教育活動を充実させてまいります。ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。